

<金標準、28日のFOMCに向けて調整場面>



(出所：オアシス)

今週の金標準は、先週に新たな投資商品であるビットコインの下落やウクライナ情勢で地政学的なリスクの高まりを受け、一時金標準の見直しから6243円まで戻り高値を試したが、ウクライナ国境からロシア軍が撤退を発表するなど、緊張緩和に伴い逃避需要の後退で6150円まで下値を試している。特に今週は28日にFOMCが控えており、パウエルFRB議長の記者会見でテーパリングの時期のヒントが示される可能性もあり、また29日は第1四半期GDP・速報値の発表も控えるなど、景気回復の期待感などでドル高の動きも予想され目先調整安の値動きに注意が必要であり、そのため6100円に向けた下値模索には注意したい。

(2021年4月25日記載)

<テクニカル>

MACDでは、MACDが下げながら、上昇しているシグナルに向けた動きを行っている。そのためMACDとシグナルの乖離を示すヒストグラムは強気のプラスサイドから縮小を続けており、弱気に転換する確率が高まっている。また移動平均線では、上昇中の10日移動平均線を日足が下回る動きを一時示しており、40日移動平均線との乖離幅も拡大した状態であることから、10日移動平均線を維持する事が出来ないと6079円に位置している40日移動平均線に向けた下値追いが予想される。